

実験動物の技術と応用 入門編 増刷（第八刷）にあたっての修正点

修正箇所	修正前（第七刷まで）	修正後（第八刷）
p. 35 「2. 雄の精子発育」 の項、4 行目	…この過程で <u>1 回の成熟分裂</u> …	…この過程で <u>体細胞分裂</u> …
p. 55 「2. 給餌・給水」の 項、下から 9 行目	…小型げっ歯類で 0.03 <u>mPa</u> （ <u>パスカル</u> ）…	…小型げっ歯類で 0.03 <u>MPa</u> （ <u>メガパスカル</u> ）…
p. 55 「2. 給餌・給水」の 項、下から 8 行目	…動物では 0.05 <u>mPa</u> 程度…	…動物では 0.05 <u>MPa</u> 程度…
p. 55 「2. 給餌・給水」の 項、下から 2 行目	…(およそ 0.1 <u>mPa</u> 以上)…	…(およそ 0.1 <u>MPa</u> 以上)…
p. 77 右欄、欄名	ネラトン <u>カーテル</u>	ネラトン <u>カテーテル</u>
p. 150 (5) 感染性疾病の項、1 行目	ブタには 11 種類の家畜法定伝染病と 14 種の家畜届出伝染病がある。	ブタには 11 種類の家畜伝染病と 16 種類の届出伝染病がある。
p. 151 「2. 交配」の項、1 行 目	…人工 <u>受精</u> による…	…人工 <u>授精</u> による…
p. 157 右欄、感染症法の欄、 4 行目	… <u>マールブルグ熱</u> …	… <u>マールブルグ病</u> …

加えて、p. 150、8-3 を下記の通り修正いたしました。

(修正前（第七刷まで）)

表 8-3 ブタのおもな感染症

病名	外見所見	予防・治療
豚丹毒 (法)	急性：皮膚チアノーゼ、敗血症 亜急性：じんましん 慢性：心内膜炎、関節炎	ワクチン (30~50 日子ブタ)
萎縮性鼻炎 (AR)	(届) 鼻や顔面の変形、発育不良	母豚用ワクチン
豚赤痢 (届)	粘血下痢	抗生物質
豚流行性下痢 (届)	水溶性下痢 (冬季が多い)	母豚用ワクチン
大腸菌病	哺乳子ブタの下痢、敗血症 子ブタ：下痢、浮腫病	ワクチン 抗生物質
胸膜肺炎 (APP)	肺炎、胸水	ワクチン
滲出性皮膚炎	皮膚炎、スス病	
グレーサー病	耳・鼻にチアノーゼ、神経症状	ワクチン
日本脳炎 (法)	妊娠豚の死流産 (人獣共通感染症)	母豚用ワクチン
豚伝染性胃腸炎 (TGE) (届)	水溶性下痢、嘔吐 (幼齢ほど致死率高い)	母豚用ワクチン
オーエスキー病 (届)	神経症状 (幼齢ほど致死率高い)	母豚用ワクチン
豚パルボウイルス感染症	妊娠豚の死流産	ワクチン
豚繁殖・呼吸障害症候群 (届)	激しい複式呼吸、ヘコヘコ病	ワクチン
流行性肺炎 (SEP)	咳、肺炎、発育不良	

トキソプラズマ病	(届)	リンパ節の腫大、出血 (人獣共通感染症)	ネコの 侵入防止
豚肺虫症		咳、肺炎(肺気腫)	駆虫剤
豚カイセン症(ヒゼンダニ)		皮膚のかゆみ、丘疹、水痘	駆虫剤

(法) 家畜法定伝染病、(届) 家畜届出伝染病
「実験動物の基礎と技術 各論」、(社) 日本実験動物協会編、p. 156、丸善、1989年

(修正後(第八刷))

表 8-3 ブタのおもな感染症

病名		外貌所見	予防・治療
豚丹毒	(届)	急性：皮膚チアノーゼ、敗血症 亜急性：じんましん 慢性：心内膜炎、関節炎	ワクチン (30~50 日子ブタ)
萎縮性鼻炎 (AR)	(届)	鼻や顔面の変形、発育不良	母豚用ワクチン
豚赤痢	(届)	粘血下痢	抗生物質
豚流行性下痢	(届)	水溶性下痢 (冬季が多い)	母豚用ワクチン
大腸菌病		哺乳子ブタの下痢、敗血症 子ブタ：下痢、浮腫病	ワクチン 抗生物質
胸膜肺炎 (APP)		肺炎、胸水	ワクチン
滲出性皮膚炎		皮膚炎、スス病	
グレーサー病		耳・鼻にチアノーゼ、神経症状	ワクチン
流行性脳炎	(法)	妊娠豚の死流産 (人獣共通感染症)	母豚用ワクチン
伝染性胃腸炎 (TGE)	(届)	水溶性下痢、嘔吐 (幼齢ほど致死率高い)	母豚用ワクチン
オーエスキー病	(届)	神経症状 (幼齢ほど致死率高い)	母豚用ワクチン
豚パルボウイルス感染症		妊娠豚の死流産	ワクチン
豚繁殖・呼吸障害症候群	(届)	激しい複式呼吸、ヘコヘコ病	ワクチン
流行性肺炎 (SEP)		咳、肺炎、発育不良	
トキソプラズマ病	(届)	リンパ節の腫大、出血 (人獣共通感染症)	ネコの 侵入防止
豚肺虫症		咳、肺炎(肺気腫)	駆虫剤
豚カイセン症(ヒゼンダニ)		皮膚のかゆみ、丘疹、水痘	駆虫剤

(法) 家畜(法定)伝染病、(届) 届出伝染病
「実験動物の基礎と技術 各論」、(社) 日本実験動物協会編、p. 156、丸善、1989年(一部改編)

実験動物の技術と応用 入門編（第八刷）の正誤表

下記の通り訂正いたします。

訂正箇所	誤	正
p. 6 「2. 動物保護運動と動物実験擁護」の項、下から4行目	…、また、米国の <u>AAALAC</u> …	…、また、米国の <u>AAALAC インターナショナル</u> …
p. 32 「2. 作出方法」の項、5～7行目	<u>1980年にJohn Gordonがマウスにラットの成長ホルモン遺伝子DNAを導入し、体重が1.5倍のジャイアントマウスを作製した。これが最初のトランスジェニックマウスである。</u>	<u>1980年に入るとトランスジェニックマウスが作製されるようになり、1982年にはR.L. Brinsterらによって、マウスにラットの成長ホルモン遺伝子DNAを導入し、体重が1.5倍のジャイアントマウスが作製された。</u>
p. 35 「2. 雄の精子発育」の項、1～2行目	…、各精細管の断面に、 <u>精原細胞</u> から、 <u>精祖細胞</u> 、さらに…	…、各精細管の断面に、 <u>精祖細胞</u> から、 <u>精母細胞</u> 、さらに…
p. 77 「3. 外科用器具・器材」の項、下から6行目	ピンセット・ ^{せっし} 撰子：	ピンセット・ ^{せっし} 鑷子：
p. 149 「4. 個体識別」の項、4行目	…、 <u>(社) 日本種豚登録協会</u> の耳刻基準を…	…、 <u>(一社) 日本養豚協会</u> の耳刻基準を…
p. 149 右欄、図8-3の出典先	<u>「実験動物の基礎と技術 II 各論」、(社) 日本実験動物協会編、p. 170、丸善、1989年</u>	<u>(一社) 日本養豚協会 一腹記録規程</u>
p. 157 右欄、感染症法の欄、2行目	…申請 (<u>環境省</u> および <u>厚労省</u>) …	…申請 (<u>厚労省</u> および <u>農水省</u>) …
p. 175 右欄、ホメオチック遺伝子の欄、1行目	<u>体区分の付属構造</u> を決める遺伝子…	<u>体節構造</u> を決める遺伝子…